

# 行政視察等報告書

平成30年2月21日

境港市議会

議長 岡空 研二 様

会派名 きょうどう

代表者 米村 一三



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

## 記

1 視察等期間	平成30年2月6日（火）～7日（水）
2 視察等先 及び内容	① 平成30年2月6日（火） 14:00～16:00 周南市徳山駅前賑わい交流施設 山口周南市御幸通り2丁目28-2 【公共施設再配置計画について・徳山駅前賑わい交流施設について】 説明者 周南市 政策推進部 施設マネジメント課  ②平成30年2月7日（水）10:00～11:30 周南市徳山動物園 山口県周南市大字徳山5846 【徳山動物園リニューアル事業について】
3 視察等議員	濱田 佳尚
4 総経費	合計（1名） 36,070円 （一人当たり 36,070円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所見等	別紙のとおり

内 容：①公共施設再配置計画について・徳山駅前賑わい交流施設について

報告者：濱田 佳尚

所見等

(1)

担当課職員から、周南市の状況と、これまでの取り組みの流れについて説明をうけた。

失敗談として、平成24年10月に『(仮称)周南市公共施設再配置計画(案)』を公表した際に、市民・議会への説明不足や総論の前に結論に言及してしまったこと。地域性への配慮不足から、批判が集中してしまった結果、平成25年2月再配置計画(案)の取り下げを決めることとなった。

しかし、このことがきっかけで公共施設再配置計画に関する特別委員会の設置が決まり、議会への情報提供・協議の場が作られることになった。

このような過去の失敗を活かし、改めて公共施設再配置計画を策定するにあたっては、「住民や議会との情報共有と市民参画(情報発信・行政と市民の協働)」に配慮して事業が進められた。その中の工夫として、計画の周知のためにマンガ冊子の製作・配布を行ったり、実際の取り組みを通じてどのように進めていくのかを理解していただくために地域を限定しモデル事業を実施したりしている。

公共施設の再配置は、境港市においても今後様々な場面で議論されることとなるだろう。周南市の取り組みに学び、「再配置の意味・意義の周知」=「総論」の周知徹底や、市民全体の意見を反映させる手法の研究などが本市でも求められる。

説明を受けた後、オープンしたばかりの徳山駅前賑わい交流施設内の見学を行った。交流施設は、徳山駅旧在来線駅舎(徳山ステーションビル)跡に整備が進められ、平成30年2月3日に開業したばかりであり、施設内は多くの老若男女が利用していた。

徳山駅前図書館を核となる施設とし、飲食施設、周南警察署徳山駅前交番、交流室、市民活動支援センターが入る。指定管理者のCCCは、図書館の一部にスターバックスおよび蔦屋書店を出店する。これは武雄市図書館や海老名市立図書館と同様の方式である。

内容：②徳山動物園リニューアル事業について

報告者：濱田 佳尚

所見等

周南市徳山動物園は、昭和35年3月20日に開園し、現在、期間15年に及ぶ全面的なリニューアル事業を実施中である。徳山公園内に、旧徳山市の市制施行25周年を記念してオープン。現在は、動物園としてはコンパクトな約5haの敷地に、700点の動物を飼育している(現在はリニューアル中であり450点)。入園者数は年間約30万人台で推移し、半数が市外客である。

市街地の中の「まちなか動物園」として、市民とともに「こんな動物園だったらいいね」というテーマのもと協議がすすめられ、①環境学習②地域の賑わい作り③種の保存④市民活躍の場⑤命の学習、といった役割を見つけて活動している。

境港市の水族館構想と照らしあわせてみれば、境港市に水族館を建設することは、単なる観光振興策という観点ではなく、徳山動物園と同様に地域に根付いた役割を持つ必要があると考える。現在、水族館構想は棚上げ状態である。もし、水族館建設が実現するのであれば専門家や行政だけではなく、構想段階で「こんな水族館だったらいいね」と市民とともに考えていく取り組みが重要であると考えさせられた。